

保健科学部 モデルカリキュラム

作業療法学科

言語聴覚療法学科

臨床工学科

作業療法学科のカリキュラム

リハビリテーション (rehabilitation) 医療が日本に芽吹いてすでに 50 年以上の歳月が流れ、「リハビリ」という略語も一般用語として世間に知られるようになってきました。しかし、その用語の認識も、動かない手足を動かしたり、歩行練習をしたりといった身体機能の回復を目的とした機能訓練に留まっているのも事実です。リハビリテーションの語源は「re (再び)」「habilis (適した、ふさわしい)」「ation (にすること)」です。それは、失った機能を取り戻すだけの治療的な関わりだけではなく、障害を負いつつも「その人がその人らしく生きていく」ことを目的に、人生を再建していこうとする知識と技術の実践体系です。身体の機能に焦点を当てた「治す」という医学モデルの時代から、ともに生き、ともに暮らしてしていくという人間活動に焦点を当てた「生活モデル」の時代になっているのです。

作業療法は当初より、心と体のバランスを見つめ、障害者の生活を見つめてきました。実際的な支援の方法や理論などは時代とともに進化し、それとともにカリキュラムも変化してきました。しかし、心と体の関係を、誠意を持って真摯に見つめる作業療法士を養成するという教育の核が変化することはありません。また、当大学が掲げる「学生一人ひとりのもつ能力を最大限に引き出し引き伸ばし、社会に有為な人材を養成する」という建学の理念も変わることなく、個々の学生がもつ可能性を見つめ、知識と技術と誠意を持った作業療法士になる教育を教員一同念頭に置きながら行っています。

作業療法学科では、前述の理念のもとそれを具体的に実践するカリキュラムとして必修・選択あわせて 10 の大学共通基礎科目、16 の学部共通基礎科目、64 の専門教育科目を開講しています。これらの科目は大きく以下の分野に分かれています。

A：基礎分野

- ・科学的思考の基礎 (情報処理、保健科学、医療統計学)
- ・人間と生活 (語学、心理学、コミュニケーション論)

B：専門基礎分野

- ・人体の構造と機能及び心身の発達 (解剖学、生理学、運動学、人間発達学など)
- ・疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 (内科学、整形外科学、精神医学など)
- ・保健医療福祉とリハビリテーションの理念 (リハ医学、公衆衛生学など)

C：専門分野

- ・作業活動分析学
- ・作業療法評価学／治療学
- ・地域作業療法学
- ・臨床実習

開講科目の具体的なつながりについては次頁の図のようになっています。Aの基礎分野、Bの専門基礎分野は主に医学概論や基礎医学や臨床医学であり、1年次と2年次にかけて集中的に講義が行われます。これらは作業療法実践のベースとなる知識です。また、3年次までにレクリエーション・インストラクターの資格を取得する科目を開講しています。以下、学年ごとのカリキュラムを概説します。

1年次には、教養科目と基礎医学を中心とした科目が開講されます。1年次期末の臨床見学実習では病院などの臨床場面で、現実の患者さんと触れ合い作業療法を目の当たりにすることで、社会人としての接遇や患者対応を身につける契機とします。

2年次には、臨床医学や作業療法の専門基礎科目を中心とした科目が開講されます。2年次期末の臨床体験実習では身体障害の病院や精神科病院などに通い、それまで机上で学んできた基礎医学や作業療法理論の知識の整理と技術の統合を図ります。

3年次には、専門分野である作業療法の評価や疾患に応じた治療学、また介護保険や自立支援法などの社会の仕組みと関連した地域における作業療法など、より専門的で実践的な科目が開講されます。2年次期末の臨床評価実習ではそれぞれの領域の病院や福祉施設で対象者の評価を行い、その障害像を構築し、患者理解の本質を実践します。

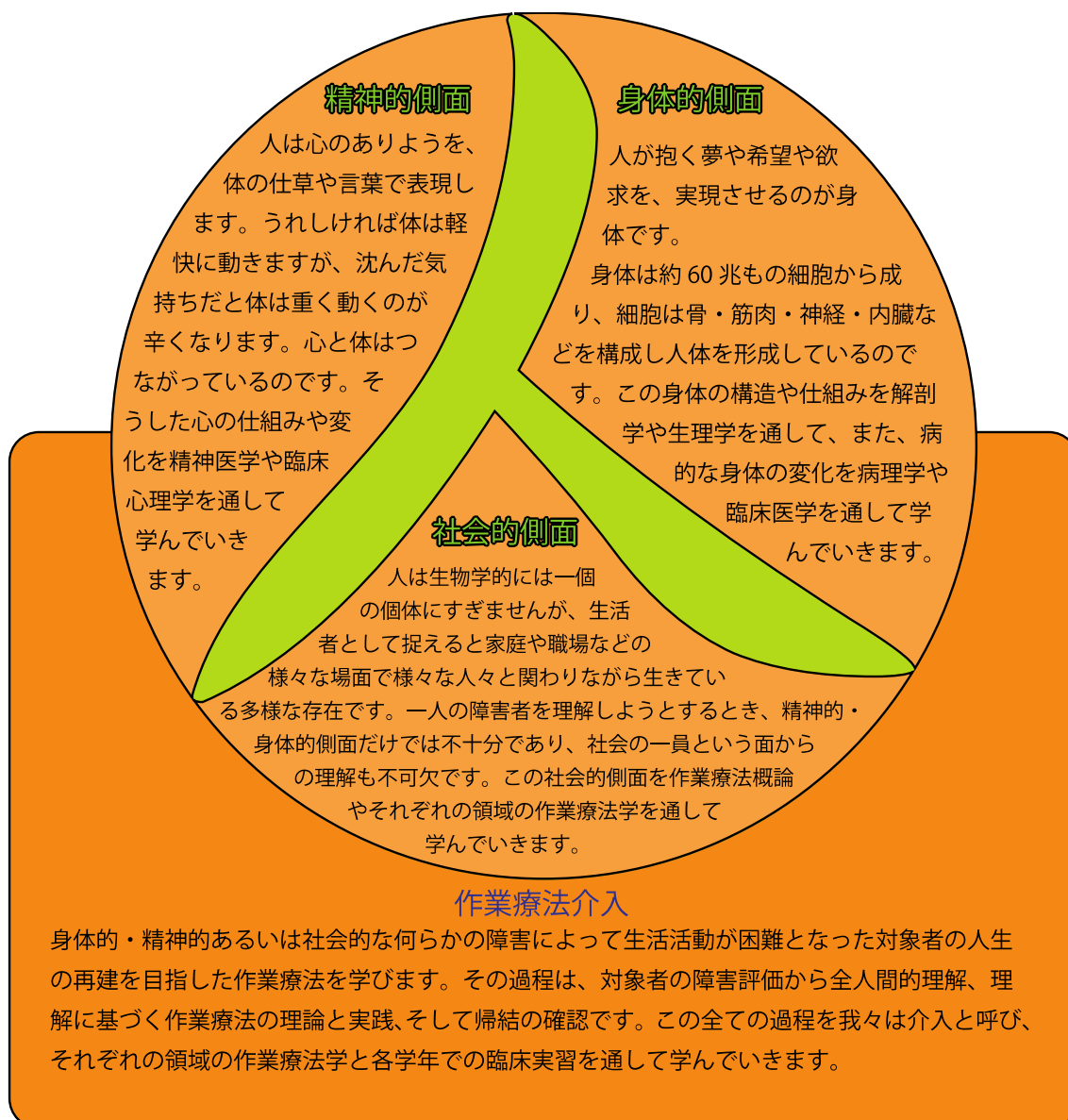
4年次は3年間学んできた作業療法の総括です。ここでは臨床の場で実際の患者さんを担当し、実際の作業療法アプローチを体系的に実践する総合臨床実習が行われます。病院や施設で長期間にわたって行われるこの実習は、未知への不安と成果に対する喜びが混在する貴重な体験になります。総合臨床実習を終えて帰ってくる学生の顔には、達成感や医療人としての自覚が刻まれています。

総合臨床実習を終えると、いよいよ国家試験に向けての勉強が始まります。当該学年のチューターが受験対策を計画し、試験に向けての勉強方法や模試の作成などを行い、模試結果を分析し学習指導をしています。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
臨床実習	臨床見学実習Ⅰ 臨床見学実習Ⅱ	臨床体験実習	臨床評価実習	総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ
地域作業療法学			地域作業療法学Ⅰ 地域作業療法学演習	地域作業療法学Ⅱ
作業治療学		日常生活活動技能Ⅰ 日常生活活動技能Ⅱ	身体障害作業療法Ⅰ・Ⅱ 精神障害作業療法Ⅰ・Ⅱ 発達障害作業療法Ⅰ・Ⅱ 老年期障害作業療法Ⅰ・Ⅱ 創傷代償Ⅰ・Ⅱ 高次脳機能障害作業療法 特別課題研究Ⅰ	
作業療法評価学		作業療法評価Ⅰ・Ⅱ	作業療法評価Ⅲ・Ⅳ	
基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ・Ⅱ	作業活動分析学・演習 レクリエーション論	作業療法研究法 レクリエーション演習	
人体の構造と機能及び 心身の発達	解剖学・解剖学実習 生理学・生理学実習 病理学 臨床心理学	運動学 運動学実習 人間・運動発達学 神経科学特論		
疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	一般臨床医学 精神医学Ⅰ 神経科学特論 薬理学 言語・聴覚障害学特論	内科学 整形外科 神経内科学 小児科学 精神医学Ⅱ 老年医学		
保健医療福祉と リハビリテーションの理念	QOLと人間の尊厳 健康科学論	リハビリテーション医学	理学療法概論	
科学的思考の基礎 人間と生活	英語Ⅰ 情報処理入門 医学概論 医療英語 心算学 基礎統計学			
専門分野				
専門基礎分野				
基礎分野				

基礎から応用へ

以下の図は活動する人としての対象者の三つの側面と、そこに介入し支えるための作業療法教育の理念を図式化したものです。



以上、作業療法学科のカリキュラムの概要を説明しました。作業療法では「治療者自身も治療の道具である」といわれます。作業療法士自身の人柄や雰囲気や考え方が、障害受容や人生の再構築への意欲に直接作用するという事です。そうした意味では知識や技術だけでなく、人としての成長も大切なのです。どの学生も多くの可能性を秘めています。きちんとした学力はもちろんのことですが、人としての成長も見守り、社会に有用な作業療法士を輩出していくことが教員一同の願いです。

言語聴覚療法学科 履修モデル

◎カリキュラムの全体像

- ・単位を取得し卒業することで、言語聴覚士国家試験受験資格を取得できる。
- ・専門教育科目(必修, 選択)と基礎科目(大学共通, 学部共通)からなる。
- ・専門教育科目は、知識系、リテラシーおよびアカデミック・スキル系、臨床実習系からなる。

◎専門教育科目

- ・言語聴覚士に必要な知識は、音声・言語学系・心理学系・医学系(基礎医学系, 臨床医学系)・人文・社会科学系の基礎的知識、および、言語聴覚障害や摂食嚥下障害に関する総論・各論からなる。
- ・リテラシーやアカデミック・スキルの向上を目指すカリキュラムは、基礎ゼミ(リテラシーのトレーニング)、専門ゼミ(臨床実習や卒業研究に関わるカリキュラム)が、1年次から4年次に渡って段階的に設定されている。
- ・臨床実習は、大きく学内臨床実習(1~3年次前期)と学外臨床実習(3年次後期・4年次前期)とに区分され、1年次から4年次にわたって段階的に設定されている。
- ・国家試験対策科目として、言語聴覚障害特講Ⅰ・Ⅱが3・4年次に設定されている。

◎必修科目と選択科目

- ・国家試験受験資格を取得するためには多くの必修科目の単位取得が必要であり、履修パターン的人格は必然的にほぼ定型化している。
- ・選択科目の履修に際しては、CAP 制の制限の範囲で履修することが望ましい。

専門教育科目および基礎科目(*は選択科目)

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
専 門 教 育 科 目	解剖学 生理・病理学 生涯発達心理学 言語学 音声学 言語発達学 言語聴覚障害概論 言語聴覚障害診断学演習Ⅰ 失語症 言語発達障害Ⅰ 聴覚障害 臨床実習Ⅰ 言語聴覚障害基礎ゼミⅠ 言語聴覚障害基礎ゼミⅡ リハビリテーション概論	臨床医学 耳鼻咽喉科学 リハビリテーション医学 呼吸発声発語系の構造、機能、病態 聴覚系の構造、機能、病態 神経系の構造、機能、病態 学習・認知心理学 生涯発達心理学演習 学習・認知心理学演習 心理測定法演習 音声学演習 音響学演習 聴覚心理学演習 言語聴覚障害診断学演習Ⅱ 失語症演習Ⅰ 高次脳機能障害演習Ⅰ 言語発達障害Ⅱ 言語発達障害演習Ⅰ 構音障害 スピーチ・リハビリテーション 嚥下障害 嚥下障害演習Ⅰ 聴覚障害演習Ⅰ 聴覚検査 保健科学概論 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ 言語聴覚障害基礎ゼミⅢ 言語聴覚障害基礎ゼミⅣ 高齢障害演習* 新生児障害演習*	臨床心理学 失語症演習Ⅱ 精神医学 臨床歯科医学 言語発達障害演習Ⅱ スピーチ・リハビリテーション演習Ⅰ スピーチ・リハビリテーション演習Ⅱ 嚥下障害演習Ⅱ 臨床実習Ⅳ 学外評価臨床実習 高次脳機能障害演習Ⅱ 聴覚障害演習Ⅱ 聴覚検査演習 言語聴覚障害専門ゼミⅠ 言語聴覚障害専門ゼミⅡ 言語聴覚障害特講Ⅰ コミュニケーション機器論演習 言語聴覚障害家族支援演習 言語聴覚障害社会支援演習*	公衆衛生学 学外総合臨床実習 言語聴覚障害専門ゼミⅢ 言語聴覚障害特講Ⅱ 言語聴覚療法管理運営学演習*

	1 年次	2 年次
大学共通基礎科目	英語 I 英語 II QOLと人間の尊厳 情報処理入門* コミュニケーション論* 日向国地域論* ボランティア活動*	キャリア教育* 国際保健福祉論* 情報処理演習*
学部共通基礎科目	医学概論 健康科学論 社会福祉学 社会学 生物学 保健科学* 生命倫理学* 医療経済学* 生涯スポーツ論* 生涯スポーツ実習* 医療英語* 哲学* 心理学*	医療統計学演習 英語コミュニケーション* 教育学*

専門教育科目の構成

リテラシー・ アカデミックスキルの向上

- 言語聴覚障害基礎ゼミ I-IV
- 言語聴覚障害専門ゼミ I-III

言語聴覚士に必要な基礎的知識

音声・言語系

- 言語学
- 言語発達学
- 音声学
- 音響学演習など

医学系

- 解剖学
- 生理・病理学
- 臨床医学
- 耳鼻咽喉科学
- 精神医学など

心理学系

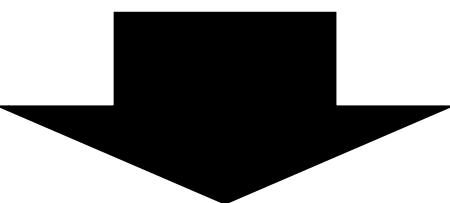
- 生涯発達心理学
- 臨床心理学
- 学習・認知心理学
- 心理測定法演習など

人文・社会科学系

- 社会福祉学
- OQL と人間の尊厳
- ボランティア活動など

言語聴覚障害・摂食嚥下障害 に関わる総論・各論

- 言語聴覚障害概論
- 言語聴覚障害診断学演習 I・II
- 失語症・失語症演習 I・II
- 言語発達障害 I・II
- スピーチリハビリテーション
- 嚥下障害
- 聴覚障害・聴覚検査
- 保健科学概論
- コミュニケーション機器論演習
- 言語聴覚障害家庭支援演習など

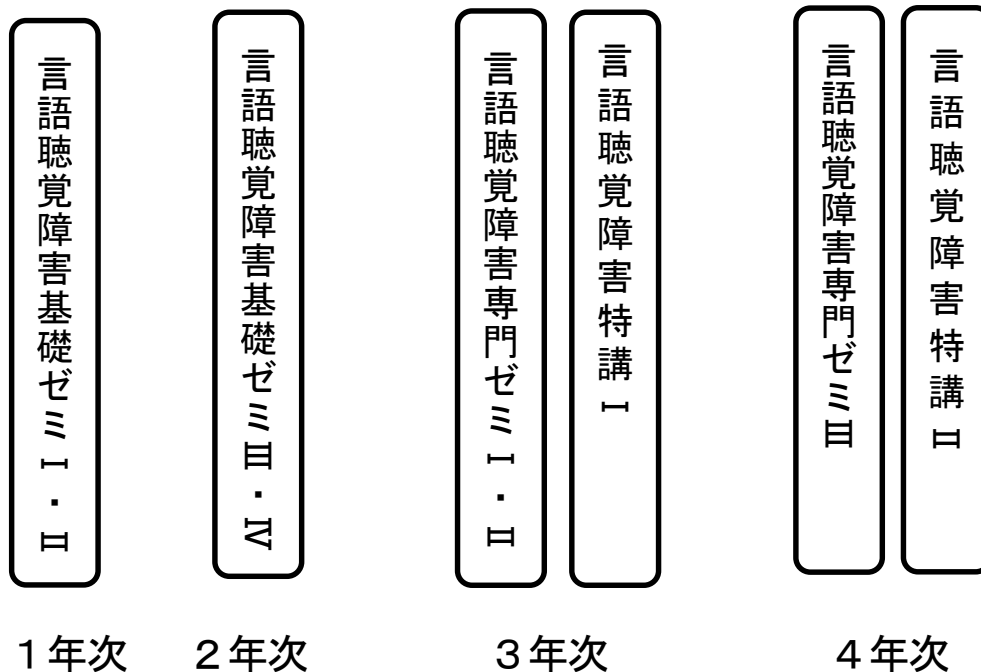


知識の統合・臨床能力の向上

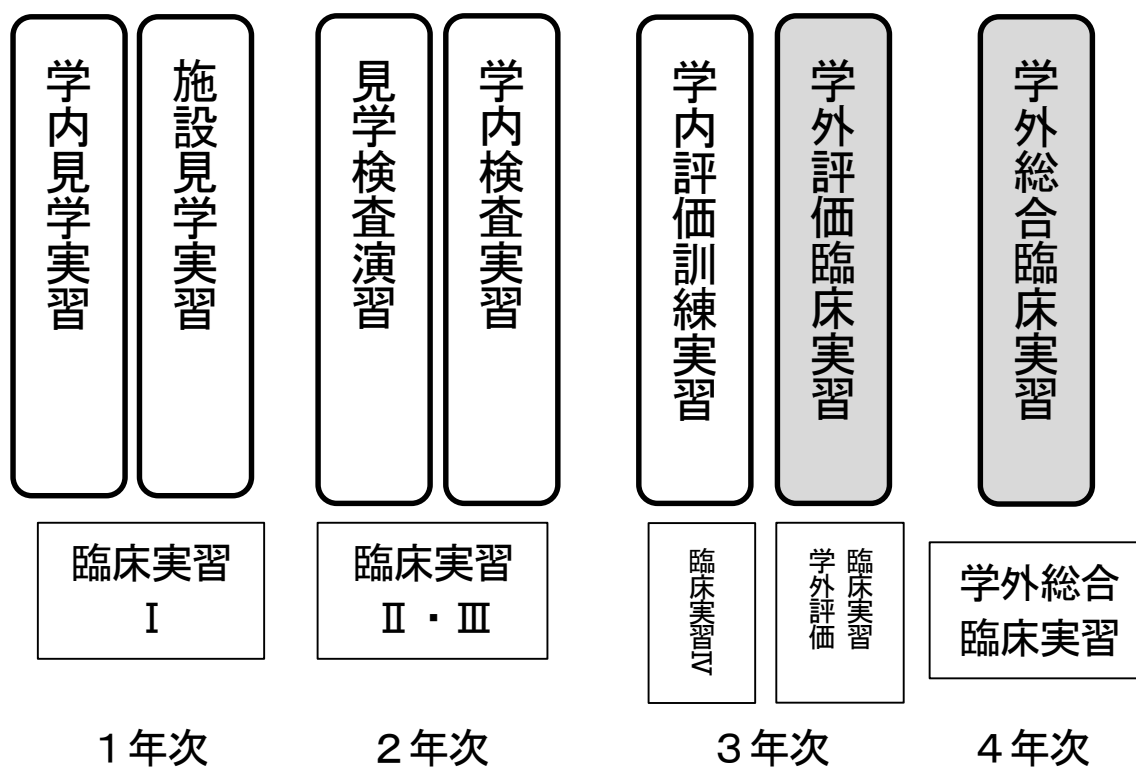
(臨床実習・卒業論文作成・国家試験対策)

- 臨床実習 I-IV
- 学外評価臨床実習
- 学外総合臨床実習
- 言語聴覚障害専門ゼミ I-III
- 言語聴覚障害特講 I・II

リテラシーおよびアカデミック・スキル系のフロー



臨床実習系のフロー



臨床工学科モデルカリキュラム(専門教育科目)

